国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学　先端農業・バイオリサーチセンター
住所：〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL：0532-44-6655　FAX：0532-81-5108　E-mail：manager@recab.tut.ac.jp

2021年1月15日
No. 77

植物工場マネージャー第9期生・IT食農先導士(土地利用型)第5期生がオンラインで開講

昨年12月5日に、最先端植物工場マネージャー育成プログラム第9期生とIT食農先導士（最先端土地利用型IT農業コース）第5期生の開講式が行われました。今年度は、新型コロナウィルス感染症リスクへの対応から「Google Meet」を使い、オンラインでの開講式となりました。植物工場マネージャー第9期生は12名、IT食農先導士（土地利用型）第5期生は6名で、うち農業および農業関係者は10名です。年齢は19歳から63歳までと幅広い層が集まりました。

開講式では、浴俊彦先端農業・バイオリサーチセンター長の挨拶があり、本プログラムの歴史と意義、受講生へのエールが送られました。またプロジェクトリーダーの山内高弘特任准教授からは、プロジェクトの概要説明等が行われました。引き続きのガイダンスでは、受講上の注意事項が説明され、最後に受講生の自己紹介が行われ、受講の動機や取り組んでいる農業の課題などが共有されました。

ガイダンス後、オンラインで第1回講義「資源植物学」が、熊崎忠特任助教により行われました。学びの意欲を持ってこのプログラムに参加された皆さんが、1年4か月に渡るプログラムを共に学び、成長をされ、そろって修了式を迎えられることを心から期待します。（文責：大原義文）

最先端植物工場マネージャー育成プログラム第9期生・
IT食農先導士（最先端土地利用型IT農業コース）養成プログラム第5期生
開講式（2020年12月5日）

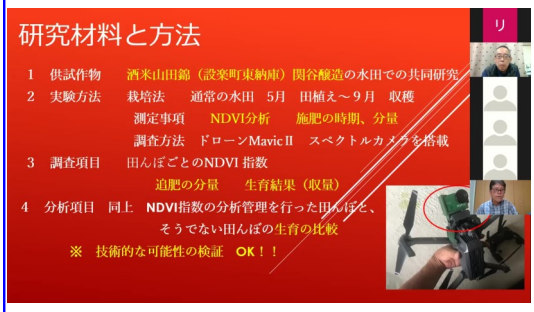
東海地域の6次産業化推進人材育成第9期生ビジネスプラン発表会

昨年12月19日にビジネスプラン発表会が開催されました。今年度は講座開始以来初めてのオンラインでの開催となりましたが、これまでの講義もすべてオンラインでの受講ということもあり、大きな混乱もなく13名の受講生がビジネスプランの発表を終えました。審査の結果、最優秀賞は大岡祐馬さんの「激レアいちごを使ったスイーツ開発」が、優秀賞は大森晋輔さんの「自社生産米・コメ加工商品の販売と農家レストランの展開について」がそれぞれ選ばれました。この人材育成プログラムは、国家戦略プロフェッショナル検定、食の6次産業化プロデューサー制度（通称：食プロ）のレベル3に認定されており、修了生の多くから「食プロ」認定者が誕生することを期待しています。（文責：水鳥絵理）

ビジネスプラン発表会（2020年12月19日）

植物工場マネージャー第8期生・IT食農先導士（土地利用型）第4期生 課題研究中間報告会を開催

昨年11月15日に課題研究中間報告会を開催しました。中間報告会では、植物工場マネージャー第8期生10名、IT食農先導士（土地利用型）第4期生5名が、現在までの課題研究の進捗状況を報告しました。新型コロナウィルス感染拡大を考慮し、オンラインで行いました。発表後、それに対して教員から質問や今後の方針等、アドバイスがされました。この報告会を通じて受講生は、今後必要な実験、データの扱い方やまとめ方を確認することができました。なお、引き続き2月の課題研究発表会に向けて、教員の指導のもと課題研究を進めて行きます。（文責：山内高弘）



課題研究中間報告会
（2020年11月15日）

季節の花　センリョウ（千両）

学名：*Sarcandra glabra*（*Chloranthus glaber*）

センリョウ（千両）は、センリョウカ科センリョウ属の常緑小低木で、冬に赤い果実をつけ美しいので栽培され、特に名前がめでたいのでマンリョウ（万両）などとともに正月の縁起物とされる植物です。原産地は、日本、台湾、中国、マレーシアです。自生地では、常緑樹林の林縁に生えているので、栽培するときは、明るい日陰で強風が当たらない場所が適しています。鉢植えは、通年戸外に置き、春と秋は半日陰、夏は直射日光が当たらない日陰、冬は寒風が当たらない場所で管理しましょう。また、花の時期に雨に当てないようにすることが、実をつけるコツとなります。

植付けからしばらくの間、土が乾いたら潅水しますが、その後は必要ありません。鉢植えは、極端に乾燥させないように、土の表面が乾いたら潅水します。いずれも夏の高温期、冬に極端に乾燥させないことが、実つきを促します。鉢植え、庭植えのどちらの場合も、肥料はほとんど必要ありません。苗を購入して株を大きくしたい場合は、5～6月の間に、緩効性化成肥料などを少量施します。特に油かすなど、チッ素分の多い肥料を施すと、成長し続けるために花が咲きにくくなり、実がつかなくなるので注意します。鉢植えでは2年に1回を目安に、一回り大きな鉢に植え替えます。地下茎から盛んに芽を出して株が大きくなるので、鉢を大きくしたくないときには、ハサミで地下茎を2～3つに切り分け、元と同じ大きさの鉢に植えつけます。植え替え、植えつけの適期は4～5月です。（文責：山内高弘）

センリョウの木と実

旬の食べ物　アテモヤ

学名：*Annona × atemoya*
英名：Atemoya

アテモヤはバンレイシ、別名シャカトウ（釈迦頭）とチェリモヤを交配し、品種改良された熱帯果樹です。アテモヤの名前はバンレイシのブラジルでの呼び名であるアテスの「アテ」とチェリモヤの「モヤ」から付けられました。完熟したアテモヤは果実の糖度が20～30度にもなるほど甘い一方、パイナップルに似た程良い酸味もあるため、近年人気がでてきた果物です。また、白く柔らかい果肉から「森のアイスクリーム」とも呼ばれます。

国内では主に沖縄県や鹿児島県でアテモヤが生産されています。露地ものは12月中旬頃から2月にかけて収穫されますが、近年ハウス栽培も行われるようになってきたため、露地ものが出回る前後にも出荷されています。アテモヤは収穫してから食べ頃を迎えるまで追熟させる必要があるため、食べ頃の旬は2週間ほど遅れます。この東海地域では三重県南伊勢町で生産され、南伊勢の特産品となっています。写真は三重県南伊勢町のやまで農園（https://yamadenoen.com/index.html）より引用。（文責：熊﨑　忠）

アテモヤの果実